

高等学校等とハローワーク（就職支援ナビゲーター） との連携に係る好事例

事例 1 高校の年間行事予定に組み込まれた支援

40人～50人程度就職する普通科高校（就職担当教員：1名）

- 就職支援ナビゲーターは、年に数回、当該校を訪問（就職支援セミナーや相談への対応等）
- 4月：3年生を対象とした**就職支援セミナー**を実施
 - … 自己分析・マナー・仕事選び・求人票の見方などの説明を通じ、就職活動に向けて必要な知識と意識の向上を図る。
 - 同セミナー以降：生徒や当該校の依頼に応じ、HWや校内での相談に対応
 - ・ 例1：教員に反発している生徒がHWに来所して相談
 - ・ 例2：保護者の勧めにより生徒がHWに来所して相談（保護者とともに来所するケースもあり）
 - ・ 例3：1回目の応募で不採用となった生徒に関し、就職支援ナビゲーターが校内での相談に対応
- 4月：**就職支援ナビゲーター・教員（進路指導主事・3年生の各担任）との顔合わせ**
 - … 情報共有及び当該校とHWとの連携内容を確認
- 9/16（選考・内定開始）の3日前まで：就職支援ナビゲーターが、**就職希望者全員と直前面談**を実施
 - … 面接に当たっての振り返り、自己肯定感を高め、自信をもって面接に臨めるよう指導（1人20分×10人／日を、3～4日。日程調整は当該校）
 - この際手交する案内カードをもとに、卒業生が就職支援ナビゲーターを頼って、HWに転退職の相談に来所することも。
- **発達障害がうかがわれる生徒について教員から相談があった場合**、校内で**適性検査**を実施。
 - 結果のフィードバック時には保護者にも同席いただくことで、**教員・保護者・本人・HWで同一の認識**の下で就職活動に臨めるよう工夫。
 - また、日本語での会話や読み書きに課題を有する**外国籍の生徒**について教員から相談があった場合、校内での相談に加え、外国人雇用に理解のある企業の情報を提供するなど**求人選定のフォロー**や**在留資格に関する情報提供**を実施。
- これらの取組開始から10年以上となるため、当該校とは信頼関係・連携体制が構築されており、**就職支援セミナーや直前面談は当該校の年間行事予定に組み込まれている。**
 - 中途退学者**に対してもHWに相談するよう誘導される。

事例 2 課題を抱える生徒が障害者用の求人に応募・採用・定着した事例

50人弱就職する専門科高校（就職担当教員：1人）

- 進路指導主事から就職支援ナビゲーターに対し、課題を抱える生徒につき相談あり。本人や保護者と面談したい旨を伝えたところ、就職担当教員に誘導されて本人が保護者とともにHWへ来所。
- 8月上旬：校内で4者面談（担任・保護者・本人・就職支援ナビゲーター）
… 就職までの流れについて説明後、職業相談（希望職種や就職への希望の聴き取り）を行い、障害者職業センターでの職業評価（各種検査や作業を実施しながらの現状分析）を勧める。
- 9月上旬：障害者職業センターにて職業評価を実施
- 9月下旬：校内で6者面談（障害者職業センター・担任・進路指導主事・保護者・本人・就職支援ナビゲーター）
… 職業評価の結果を障害者職業センターから説明、就職支援ナビゲーターから障害者用の高卒求人票を3件提供の上、応募について相談
- 応募を希望する事業所での職場見学会や実習説明会について、当該事業所や担任と調整
… 前者には就職支援ナビゲーターが、後者には担任が同行。
- 12月：応募・採用
- 2月：就職後の定着支援に向けて保護者・本人に障害者就労支援センターを案内するとともに同センターの担当者との連絡調整を実施
- 4月：就職した本人あて定着支援アンケート送付及び事業所へ電話にて確認（いずれも問題なしとの返答）

事例3 定時制高校でのアルバイト奨励から始まる支援

10人程度就職する定時制高校（就職担当教員：2名）

- 就職支援ナビゲーターは、4月に各学年についての年間計画を立て、年に数回、当該校を訪問（講義・個別面談・模擬面接等）。生徒一人ひとりの顔・名前・就職希望先を把握。
- 当該校の依頼により、就職支援ナビゲーターは
 - 1～3年生には、働く意味や喜びを感じてもらうため、教員の引率の下、HW見学後、アルバイト先の検索及び応募を奨励する会を設け、積極的に働く機会を提供
 - 就職希望の4年生には、適性検査実施後、具体的な助言や求人票の提案を行う。
 - 個々の生徒に応じたきめ細かな対応により生徒全体の意欲向上を図る
 - ・ 何らかの事情のある生徒（発達障害・知的障害・自閉傾向の疑いのある生徒、元・引きこもり、ヤングケアラー等）：他の生徒よりも優先的に教員と情報共有・支援（丁寧に生徒の適性・希望等を傾聴の上、個別面談）
 - ・ 意欲的な生徒：模擬面接や求人票について積極的に質問できる機会を作る。
 - 9/16（選考・内定開始）後は、未内定の生徒と早期に面談し、次の応募のために合同企業面接会の案内や求人票の提案等を行う。
- 教員からの積極的な情報共有のおかげで、就職支援ナビゲーターは教員と協働して生徒を支援（助言・提案・求人票の紹介等）。

事例 4 各学年への就職支援セミナーや1・2年生からの支援

10人程度就職する定時制高校（就職担当教員：2名）

- 就職支援ナビゲーターは、年に数回、当該校を訪問
- 当該校の依頼により、就職支援ナビゲーターは
 - 学年ごとに異なる内容の就職支援セミナーを実施
 - ・ 1年生：進路選択に向けた内容＋HWについての紹介（3月頃）
 - ・ 2年生：進路決定に向けた内容＋自己PRの作成支援（8月頃）
 - ・ 3年生：就職試験に向けた内容＋面接練習（8月頃）、社会に出る前の心構え（12月頃）
 - ⇒ 1年生の頃からセミナーを実施することで、就職に対する意識を醸成
 - ⇒ 当該校への定期的な訪問により、生徒が卒業後もHWに相談しやすい環境づくりや教員との密な連携体制を構築
 - 校内での面談を実施
 - ・・・ 教員から相談があった生徒（障害者手帳を持つ生徒、コミュニケーション等に課題を抱える生徒、退学予定の生徒など、今年度は4名）との面談を実施
- 日頃から教員には、気になる生徒がいれば学年を問わずHWに御相談いただくよう呼び掛けているため、支援が必要な生徒に対しては早期から就職支援ナビゲーターが支援に当たることが可能

事例5 就職指導のノウハウが乏しい進学校における支援

3人弱就職する普通科高校（就職担当教員：1名（今年度から初めて就職指導を担当））

- 就職支援ナビゲーターは年度初めに当該校を訪問し、
 - ・ 就職担当教員に対し、高校における職業紹介の流れ、求人票の見方、高卒求人に関する申合せ等を説明
 - ・ 当該校の依頼に応じて、就職希望者との面談や職業講話などの支援が可能な旨を案内
- 当該校の依頼により、就職支援ナビゲーターは
 - 職業講話を実施（生徒だけでなく就職担当教員や保護者も対象）
 - 生徒との個別面談（就職担当教員も同席）を実施し、生徒一人ひとりの顔・名前・希望職種や希望就職先を把握
 - 履歴書の作成について助言（担任も同席）
 - … 生徒のことを日頃からよく知っている担任からの助言により、魅力的な自己PRが完成
 - 模擬面接を実施
 - … 採用選考時には複数の面接官がいることを想定し、教員も面接官として参加
 - 今年度は今後、内定者向けの講習を実施予定
 - 就職担当教員からの電話相談（履歴書の書き方、求人票の見方など）には日常的に対応

通信制高校への支援に係る好事例

管外のサテライト施設も意識した取組

中央の事務局を通じて管外のサテライト施設へ就職に関する知識を共有

- 当该校は毎年100～150人程度就職する通信制高校の本校（就職担当教員: 2名以上）。
- 全国に300カ所以上のサテライト施設を持つが、管外のサテライト施設へ当所から直接的な支援を行うことは困難。
- 当该校の依頼により、管内のサテライト施設での個別面談及び面接練習、就職支援セミナーを実施した。
- **全サテライト施設を管理する事務局の進路指導担当者に対し、年に1度、就職支援に関する知識の付与・認識の確認を行い、同事務局を通して各サテライト施設へ知識を共有。**
- 当该校（サテライト施設を含む）では、就職希望者の正確な人数把握が困難（進路希望調査を3年生の4～5月しか実施しないため）。途中で進路変更した生徒の人数把握等を行うためにも、同調査の実施回数を増やすように当该校へ進言。

広域企業説明会を開催し、管外のサテライト施設にも情報共有

- 通信制高校の生徒は就職情報への接触機会が少ないことや居住地・登校形態が多様。一方、企業側では、若年人材確保が課題であったことから、生徒の就職支援と企業の充足支援を目的にハイブリッド方式で、本校エリアを代表する産業別の企業説明会を実施。具体的には、
 - ・ 本校（毎年10人程度就職、就職担当教員: 2名）の生徒の登校日に合わせて開催。
 - ・ 同説明会は西日本のサテライト施設にもオンラインで共有。本校エリアの地場産業である住込可能求人を参加者に情報提供し、移住促進のPRも併せて実施。

課題を抱える生徒が在籍する通信制高校への対応

6者面談を実施した事例

- チャレンジ校であるため、何らかの課題や事情のある生徒（発達障害やヤングケアラー等）が多く在籍（毎年60人程度就職、就職担当教員: 2名）。
- **2年生の3月に生徒・保護者、担任・就職担当教員、就職支援ナビゲーター・専門援助部門の6者面談を実施。**

障害者手帳を持つ生徒が毎年数名就職するサテライト施設（本校は他の都道府県）

- 特別支援学校とは異なり障害者手帳を持つ生徒の実習先の新規開拓に課題あり。
- **精神・発達障害者雇用サポーターから障害者雇用を希望する企業情報を入手。**それらの企業が在校生の実習受入れも可能で卒業後の就職も視野に入れ中長期的に雇用を検討していることを確認次第、**メール等で当該校へ情報提供。**

精神・発達障害者雇用サポーターとともに訪問

- 近年、障害がある生徒・発達障害がうかがわれる生徒・困り感のある生徒が、就職未内定のまま卒業し、HWに来所するケースが多くみられる。
- 早期の就職支援につなげるため、通信制高校（2校、就職希望者は合計100名超）やサテライト施設（就職希望者は55名程度）訪問時に**精神・発達障害者雇用サポーターにも同行**してもらい、障害の特性、オープン・クローズのメリット・デメリット、（障害者）求職登録、職業相談、助成金の活用、就労選択支援等を説明するとともに、各校での取組や生徒の現状等も把握。

その他の一般的な取組を通信制高校用に強化した取組事例

管内の通信制高校の特性を踏まえた工夫

○ 課題：

- ・ 通信制高校では登校日が少ないため、就職活動がスタートしても応募先の選定が出来ず、未応募者が多くなる。
- ・ 生徒も就職担当教員も高卒就職情報WEB提供サービスで上手く検索や閲覧が出来ないことから、希望する求人のピックアップが出来ない。
- ・ サテライト施設の場合、全日制高校よりも事業所への周知が不十分であることから、届く求人件数が少ない。
- ・ 家庭の問題を抱えている生徒や、出席日数の不足により高校から求人先へ推薦してもらえず卒業優先となる生徒も多い。

○ これらの課題を踏まえ、

- ・ **就職支援セミナー**：7月に校内で3年生を対象に実施（自宅等にいる生徒や希望する保護者はオンライン参加）。
「高卒就職情報WEB提供サービス」の閲覧方法を盛り込み、レジュメ投影+実際にタブレットを使用して実践。
- ・ **生徒が希望する求人票の郵送**：就職担当教員からの依頼に基づき、生徒の希望条件を聞き取り、当てはまる求人票を当該校に郵送。
- ・ **有効高卒求人一覧データの送信**：各校の希望を聞き取り、希望校には高卒就職情報WEB提供サービスからダウンロードした有効高卒求人一覧データを8月・10月・12月に送信。
※ 当該高校では紙ベースでファイリングし生徒がいつでも閲覧可能な状況にしているほか、毎週木曜日には「求人を見る会」を開催し生徒が求人票に触れる機会を設けているとのこと。
- ・ 保護者向け連絡ツールに**学卒部門リーフレットの掲載**：卒業間近に掲載予定（卒業後・早期離職した場合等に様々な相談窓口があることを周知するため）

一般職業適性検査の早期実施

- 年齢や状況が多様な生徒が毎年10人弱就職するサテライト施設（就職担当教員：1名）。
- **一般職業適性検査の早期実施**により、潜在的な課題がある生徒の障害者手帳の取得、HWの専門援助部門や支援機関との連携や支援会議の開催、当該校を通じた企業への障害者採用の打診、HW主催の障害者面接会への参加が可能となった。
- 他校の生徒と同時期に就活を開始することで、生徒に疎外感を感じさせず、また、生徒の応募先企業の選択肢を増やすことができた。

生徒の登校日に合わせた個別面談・他の都道府県に居住する生徒にはオンライン相談

毎年10人程度就職する全日制普通高校内の通信制課程クラスにおいて、

- 5～6月頃、担任に生徒の登校日に合わせた個別面談のスケジュールを策定してもらっている。
- 就職支援ナビゲーターが当該校において、当該校のパソコンと他の都道府県に居住する生徒の自宅をつないだオンライン相談も実施。

校内での「7/1 求人検索会」の実施

- 当該校は毎年14人程度就職、就職担当教員:1名。3年生70名のうち、約6割は進学希望、約2割は就職希望、残りの約2割は進学も就職もしない。
- 7/1（求人公開日）までに、
 - ・ 面接練習や自己PR作成支援等を実施。
 - ・ 教員にも事前準備として、職種一覧表やjob tagなどの活用により、生徒の希望の職種・条件をある程度明確化いただくよう依頼。
- 7/1に就職支援ナビゲーターが当該校を訪問。
 - ・ 1生徒につき30分程度、高卒就職情報WEB提供サービスでの検索方法等をレクチャーしつつ、希望に近い求人票をその場でピックアップ。
 - ・ 特別な支援が必要な生徒（2名）には、4者面談（担任・保護者・本人・就職支援ナビゲーター）。
 - ・ 障害者手帳を持つ生徒（3名）や発達障害の診断があるまたは特性がうかがわれる生徒（計2名）に対しても、希望職種や配慮事項の説明を実施。
 - ・ 後日、教員にフィードバック・御提案（HWの専門援助部門や外部の支援機関との連携等）。
- 通信制高校の生徒は支援が難しいという先入観があったが、実際には早くから療育を受けたり、在学中に手厚いサポートを受けたりしていた。また障害の特性や自己についての理解が進んでおり、要配慮事項と自己対処できる点を整理して説明できる生徒が多かった。